

## オルガノン要約 § 30～37

§ 29 レメディは自然の病気よりもよりも少し強く働くので、自然の病気はレメディによって根源的生命から消失してしまう。そのとき根源的生命はレメディによって活動させられ支配されている。

(注) レメディのエネルギーは自然の病気よりもはるかに強いが、作用する期間が短いので、バイタルフォースが容易に打ち負かすことができる。慢性マヤズムの作用は生涯続く。

§ 30 人間の身体を変化させる力は、自然の病気よりもレメディの方が強い。

§ 31 罹病性について：生命にとって敵対的に働くもの＝病的な有害因子。

有害因子を受けやすい傾向と素質があるときにだけ病気になる。無条件にすべての人が病気になるわけではない。罹病性＝「Susceptibility」

(注) 病気とは物質的・化学的な変化ではなく、ダイナミックに攪乱された状態である。

§ 32 レメディはどんな人間をも無条件に人為的な病気の状態にする（感染させる）ことができる。

§ 33 自然の病気＝ある条件下で感染する。レメディの病気＝無条件に感染する。

(注) しょう紅熱の「予防」として Bell.を用いて非常に効果があった。つまりレメディのエネルギーは人間の生命エネルギーを変化させる強い力を持っている。

§ 34 レメディが効果を発揮する条件：

A) 治癒すべき病気に限りなく類似していること。

B) その病気よりも少し強いこと。

§ 35 類似していなければ治療できないことを説明するために事例を三例。

それらから以下の二点を考察する。

A) 互いに類似していない自然の病気が同一の人間に併発した場合（3 パターン）。

B) 不適切なアロパシー薬を使って治療したら何が起こるのか。

§ 36 A-1) 古い病気が強い場合＝新しい病気は駆逐される。

§ 37 B について：

慢性病はいつまでも治らないし、むしろ悪化する。これはあまりにも日常的に目にしていることなので、説明の必要すらない。